特　集

子どもたちと読書

●問合先　市民図書館（☎㉓４６４６）

『親が子どもに残してあげられる最大の財産は、読書の習慣である』という言葉があります。読書により、多くの知恵が養われるだけでなく、豊かな想像力や感性が育ちます。

市では、未来を担う子どもたちが、夢を持ち、心豊かにたくましく生き抜いていくよう、子どもの読書活動推進に力を入れてきました。今回の特集では、伊万里の子どもたちの読書環境を、市民図書館や学校図書館の取り組みから見ていきます。これからさらに大人がどう関わっていけばよいのか、一緒に考えてみませんか。

あらゆる場面で、子どもたちに読書の環境を

現在、子どもたちの周りには、テレビだけでなくパソコンやスマートフォンなど多様な情報ツールがあります。しかし、子どもの成長に欠かせないのは、今でも『本』であり『読書』であると言われており、幼児期に培った読書の習慣は、生涯にわたってその人の生き方に影響を与えます。

市では平成28年に策定した第三次伊万里市子どもの読書活動推進計画に基づいて、本のある場所を設けたり、読書に触れ合う場面を作ったりして、さまざまな場所や場面で読書活動を推進しています。その中でも中心的役割を担っている市民図書館は、施設やサービスの充実が全国から注目され、県外からの視察や見学者が絶えません。また、平成26年には子どもの読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受けています。

長年、子どもへの読書環境の提供を続けてきた市民図書館の活動を中心に、本市の取り組みを紹介します。

ブックスタート

赤ちゃんが最初に健康診断を受ける３か月児健診。その最後に行っているのがブックスタートです。赤ちゃんの体の成長にミルクが必要なように、心の成長には保護者や家族による語りかけが必要です。ブックスタートでは、まず職員やボランティアが絵本を実際に読んでみて、保護者に赤ちゃんが聴いている様子を見てもらいます。そのあと絵本をプレゼントし、自宅でも本を読んで語りかけをしてもらう取り組みです。

図書館おはなし会

おはなし会はさまざまな場所で行われる絵本や紙芝居の読み語りの会です。子どもたちの前で絵本を読んだり、パネルシアターというボードやパーツを使って物語を表現する大がかりな出し物を演じたりします。

市民図書館の中には『のぼりがまのおへや』というおはなし会専用の部屋があります。毎週土曜日、午後２時 30 分からの約 30 分間は、子どもたちの楽しい時間です。

『ぶっくん』出前おはなし会

子どもたちが直接、図書館に来ることができない距離にある市内の保育園や幼稚園へ、２週間に１度のペースで自動車図書館『ぶっくん』が巡回しています。絵本や紙芝居などを貸し出すだけでなく、園の中で司書とボランティアが出前のおはなし会を行っています。おはなし会が終わると、園児はぶっくんで絵本や動物・列車の本など、自分の好きな本を選んで借りていきます。

家読フェスティバル・うちどく推進講演会

平成 19 年から市全体で取り組んでいる『家読（うちどく）』も、子どもたちは楽しく実践しています。家庭を中心に、保育園児・幼稚園児の頃から行われ、小学校では育友会やＰＴＡと連携して取り組まれています。また、公民館で開催している家読フェスティバルは、家族だけで行っていた家読を学校や地域に広げています。子どもたちの発表を見た地域の住民が、家庭や学校、地域での取り組みに協力する姿が見られるようになりました。さらに、図書館では年に１回、うちどく推進講演会を開催しています。さまざまな視点から読書活動を捉えて、バリエーションに富んだ講師を迎えて、市民だけでなく職員も一緒に学んでいます。

調べる学習はますます盛んに

単に読書をするだけでなく、疑問に思うことを調べるのに役に立つのが図書館。市では、分からないことを本で調べたり、自分の知識や考えを確認する体験をしてもらうため、『図書館を使った調べる学習コンクール（地域コンクール）』を実施しています。調べる学習に取り組むことで、さらに考えを広げたり深めたりすることができるのです。全国では、出品数も10万点を超えています。

疑問を調べ、解決することを楽しんで

第3回となった今年度のコンクールには、市内7つの小学校から91点の応募がありました。内容も、自分の好きな動物や魚、昆虫、植物、食べ物、郷土にまつわること、歴史や環境など、さまざまな分野が取り上げられていました。子どもたちが生活の中でたくさんのことに興味や関心を抱き、意欲的に『調べる学習』に取り組んでいることが分かります。

このコンクールの主なねらいは、自ら課題を見つけ、主体的に解決していく課題解決能力の育成と、学校図書館や公共図書館の有用な活用をさらに普及させることです。子どもたちには、身近な疑問を調べ、解決していく過程を楽しみ、学ぶ喜びを感じて欲しいです。

市民図書館
館長　**杉原 あけみ**

図書館を使った調べる学習地域コンクール『最優秀賞』受賞者にインタビュー

地域コンクールで最優秀賞を受賞した２人に、調べる学習に取り組んだきっかけや、図書館について思うことを聞きました。なお、両作品とも、１月 10 日、全国コンクールで『佳作』に入賞しました。

小学校中学年の部

はたらくみつばちと甘いはちみつ

大坪小学校　４年
前原 太郎 さん

調べる学習に取り組んでいるときはとても大変だったけど、受賞できて「やってよかった」と思っています。家族もとても喜んでくれました。

趣味でミツバチを飼っている、お母さんの友達のところに連れて行ってもらったときに、ミツバチ１匹が一生かかって集める蜜の量が、スプーン１杯分しかないということを知って驚いたのが、このテーマを選んだきっかけです。

市民図書館のほかに、普段から学校図書館もよく利用します。不思議に思ったことの調べ方が分かったので、これからは好きな本を読むだけでなく、いろんなことをもっと調べてみたいです。

小学校低学年の部

ざいらいしゅと外来しゅのかんけい

大坪小学校　２年
平野 源二 さん

受賞したことは担任の先生から聞きました。うれしかったけど、全国コンクールでは佳作だったので少し残念でした。

動物が好きで図鑑などをよく見ていたし、お父さんに連れて行ってもらう魚釣りも大好きで、自然に生き物のことに興味を持ちました。だから生態系のことについて調べてみようと思いました。

今回は市民図書館を利用して調べたけど、学校の図書館にももっとたくさん本があったらいいなと思います。特に動物や魚がたくさん載っている本があればなあと思います。またコンクールに参加して、今度はもっと上を目指したいです。

☆ 児童・生徒はこんなことができるようになりました
・子ども用の分かりやすい検索画面で本を探す
・教科書に出てくる言葉で本を探す
・テーマや内容で読みたい本を探す　など

学校図書館が変わる
～学校図書館電算化～

市では今年度、市立学校22校すべての学校図書館を、学校ごとに電算化しました。これによって、データベースに登録された蔵書の情報から、本の題名や著者、あるいはキーワードなどを基にして、探したい本を検索することができるようになりました。使い方次第で、子どもたちの読書や調べる学習を、さらに充実したものにすることができます。

時間的余裕を良い本の紹介に

山代西小学校
学校図書館事務職員
中島 侑奈（ゆきな） さん

以前は貸し出し用のカードに手書きで本のタイトルなどを記入させなければいけませんでしたが、今はバーコードを読み込むだけで貸し出しや返却ができるようになり、助かっています。蔵書管理も本の購入も、簡単に確実にできるようになったので、時間に余裕ができた分、子どもたちへお薦めする本の紹介などに力を入れることができればと思います。

学校同士で本の貸し借りができたら

東山代小学校
学校図書館事務職員
山口 幸子（さち） さん

11月に電算化したばかりですが、図書委員の児童はもう問題なくシステムを操作しています。私も安心して本の貸し出しと返却を子どもたちに任せています。中には自分の興味のある分野で本を検索している児童もいるようです。他の学校ともシステムがつながり、お互いに本を貸し借りできるようになればいいなと思っていますので、今後の展開に期待します。

地域社会全体で子どもの読書活動の支援を

国立青少年教育振興機構が行った調査では、『子どもの頃の読書活動が多いほど、未来志向や社会性などの意識・能力が高い』という結果が出ています。具体的には、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識が高い傾向にあるとのことです。また、大人になってからも積極的であることが分かっています。

しかしながら、子どもの読書活動を進めていくことは、子どもだけでは難しいのも事実です。まずは、身近な大人が読書への理解と関心を高めることが大切だと考えます。

大人がそれぞれの役割を果たしながら、地域社会全体で子どもの読書活動を支援し、『読書のまちづくり』を実践していきましょう。

伊万里市教育長
松本 定